

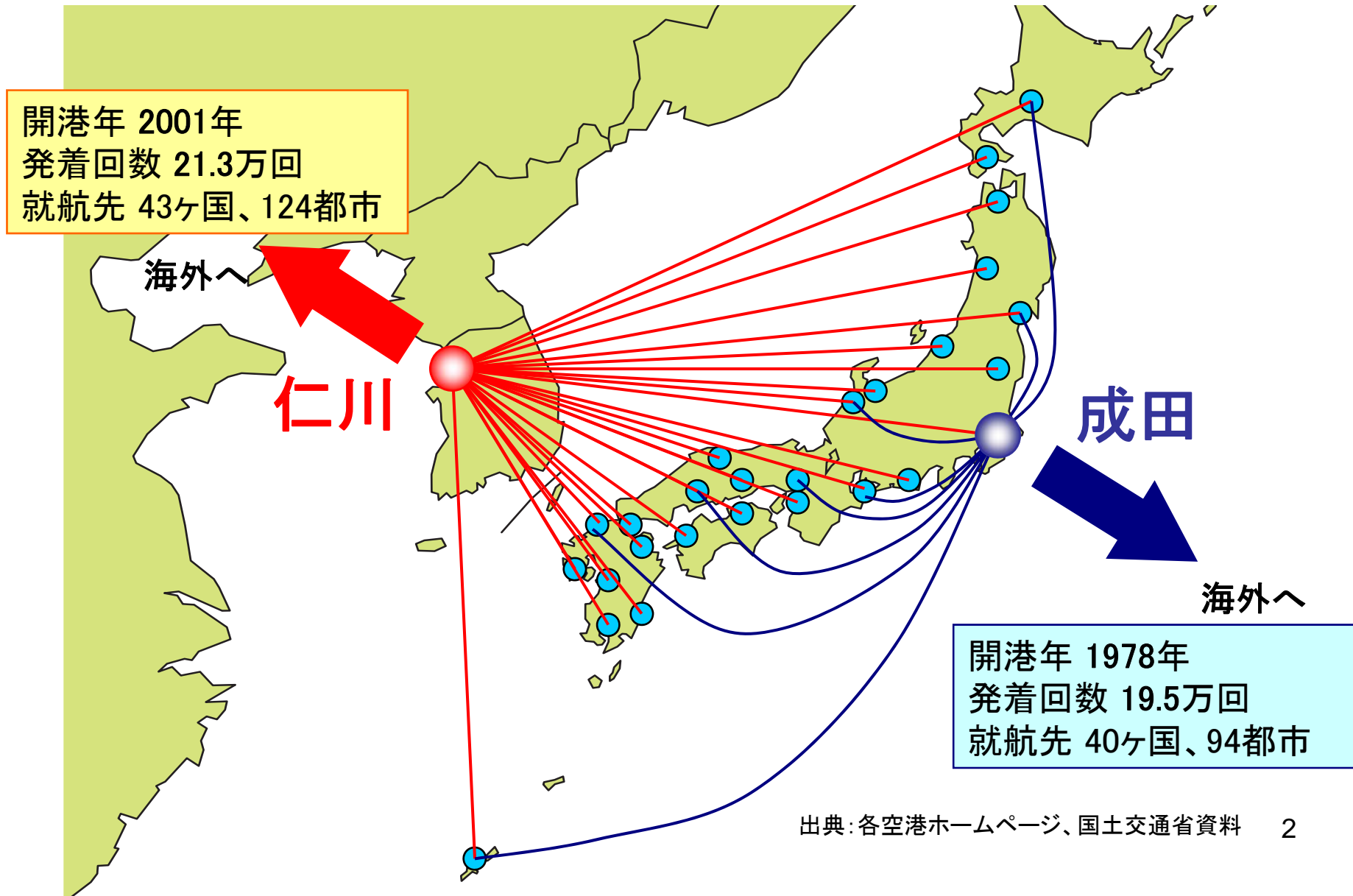


成田・羽田両空港の一体化が 日本を蘇らせる！

神奈川県知事 松沢 成文

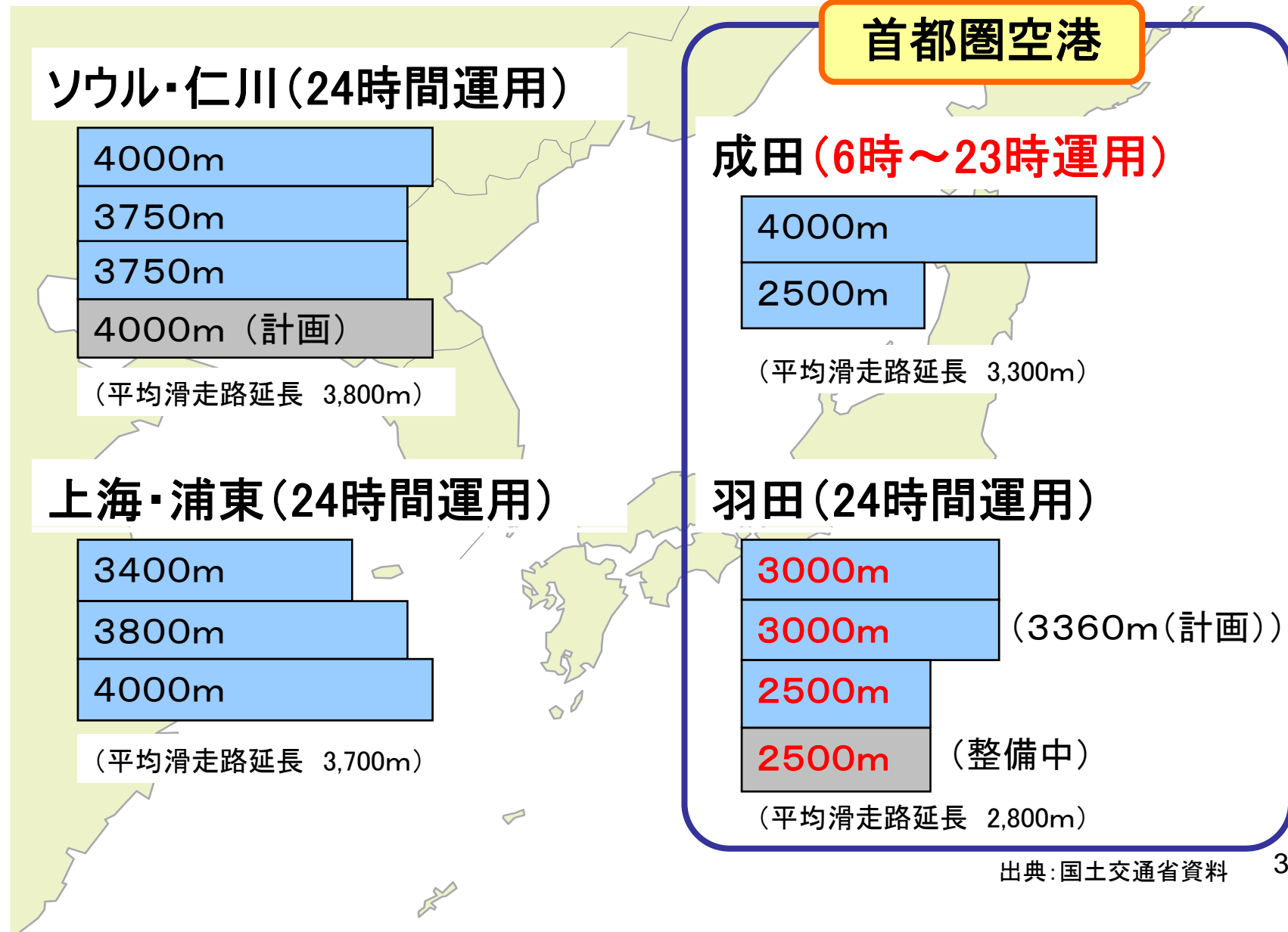
ハブ化が進む仁川空港！

～利便性で大きく後塵を拝する実情～



成田・羽田は単独ではハブ空港になり得ない！

～アジアの主要空港と首都圏空港の比較～



成田～羽田超高速鉄道整備構想



成田～羽田間の所要時間

品川経由

成田エクスプレス利用 約91分 ➡ 超高速鉄道整備後 約15分

(成田新高速鉄道開業後も変わらず)

成田～羽田超高速鉄道整備 6つの効果+1

1. 国際水準の首都圏空港の実現
2. 首都圏住民の利便性向上
3. 首都圏の業務核都市の育成
4. モーダルシフトによる地球環境保全
5. 未来に向けての公共投資と技術発信
6. 経済波及効果は2兆9,000億円

+

《シールドトンネルの形状特性を活かした多目的活用》

成田～羽田超高速鉄道整備 6つの効果

1. 国際水準の首都圏空港の実現

成田・羽田両空港の一体的運用

発着容量年間約70万回、滑走路6本の巨大空港

成田空港(2009.2)



提供: 成田国際空港株式会社

羽田空港(2009.8)



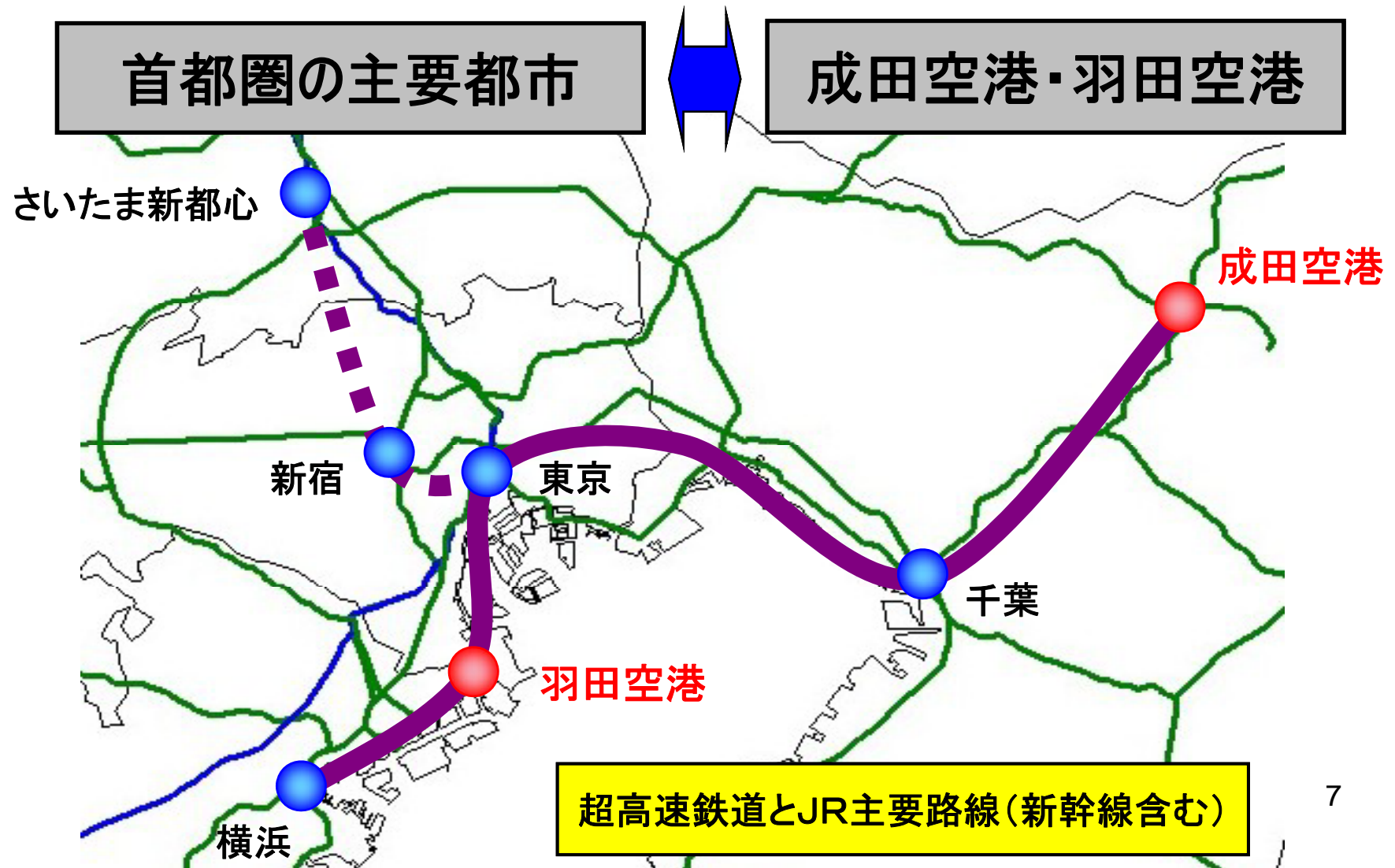
提供: 羽田再拡張D滑走路JV

+

80km離れた両空港が「隣のターミナル、隣の滑走路」に

成田～羽田超高速鉄道整備 6つの効果

2. 首都圏住民の利便性向上



成田～羽田超高速鉄道整備 6つの効果

3. 首都圏の業務核都市の育成

超高速鉄道と既存の交通ネットワークとの連携強化により、各業務核都市で首都機能の分担を実現



成田～羽田超高速鉄道整備 6つの効果

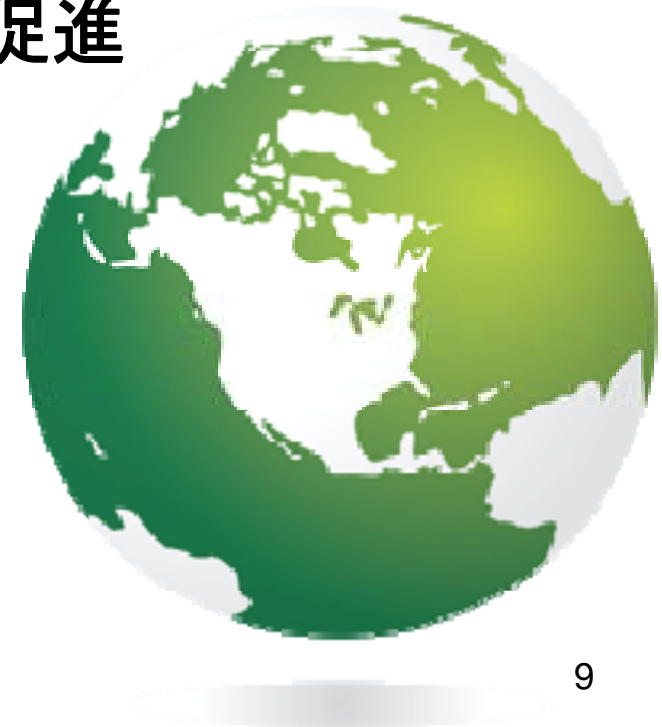
4. モーダルシフトによる地球環境保全

(現在、成田空港利用者の約6割が自動車利用)

- ・車利用から鉄道利用への転換促進
- ・渋滞解消効果



CO₂削減効果



成田～羽田超高速鉄道整備 6つの効果

5. 未来に向けての公共投資と技術発信

日本の土木技術、科学技術力(高速鉄道技術)を
世界に向けて発信・輸出

シールド工法の進歩

- ・長距離技術による立坑の減少
- ・高速化による工期の短縮

等による建設コストの低減



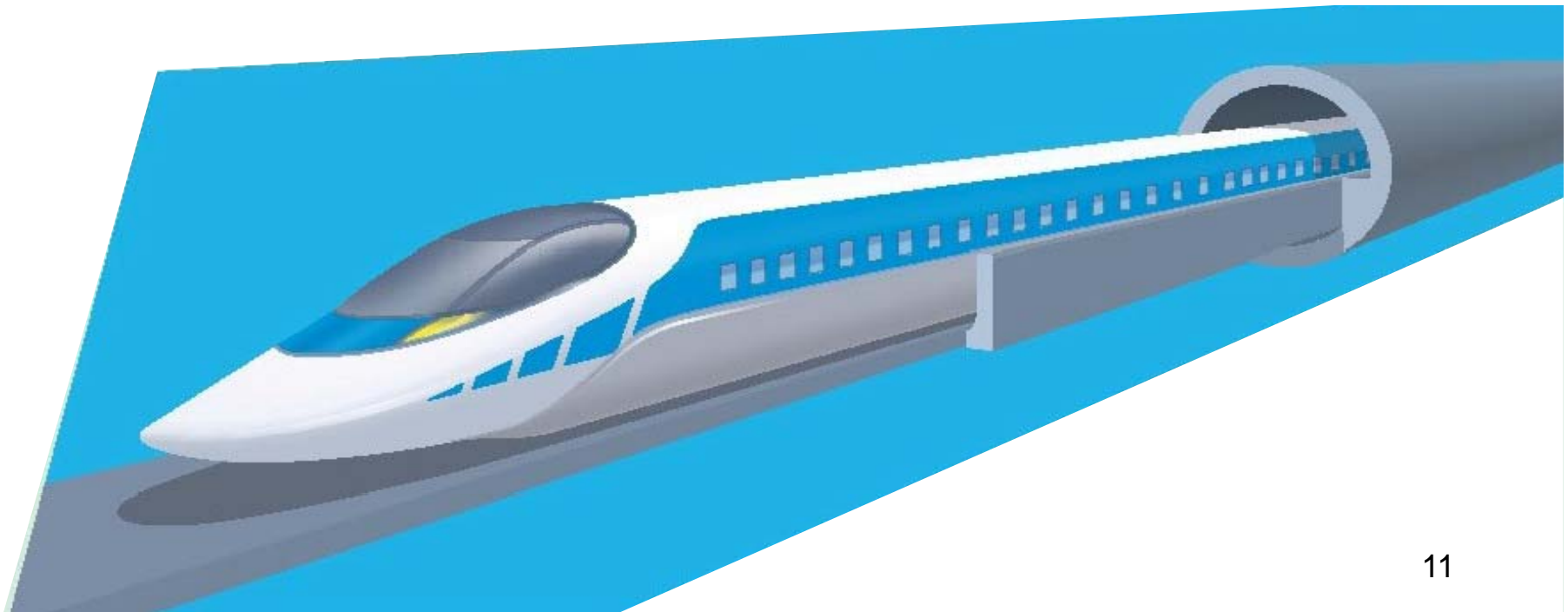
シールドマシン後部。2008年6月、建設中の大橋ジャンクショントンネル部のもの
(Wikipediaより)

成田～羽田超高速鉄道整備 6つの効果

6. 経済波及効果は**2兆9,000億円**

概算事業費約1兆3,000億円に対し、
2倍以上の経済波及効果

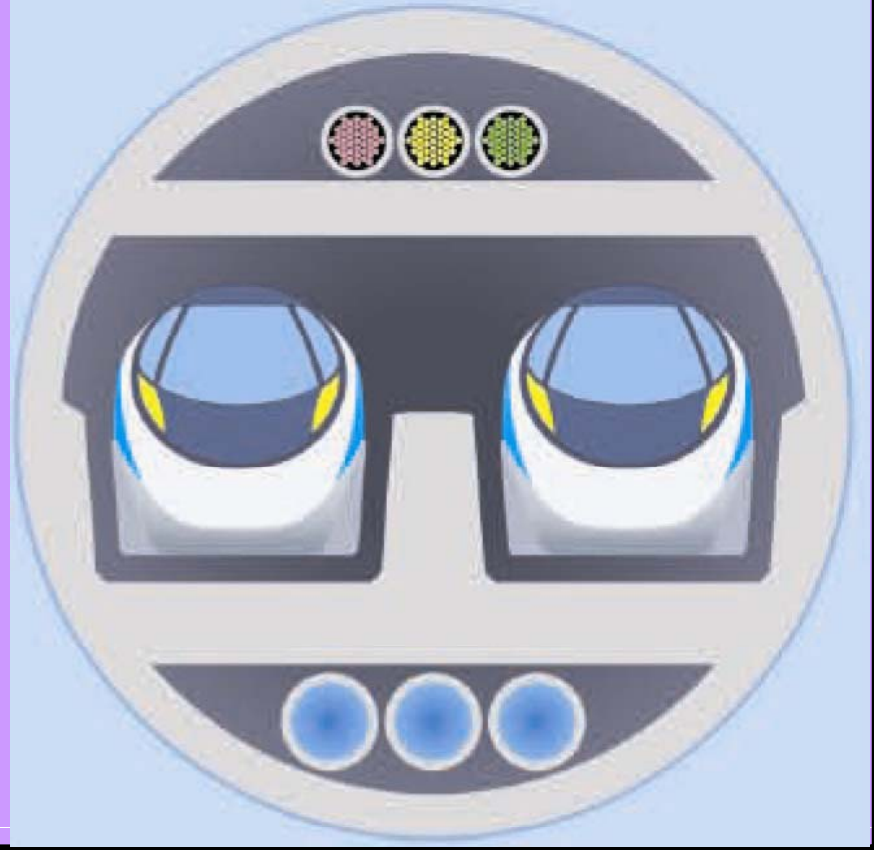
《 首都圏の国際企業の資金協力(民間資金)により、公共事業費を削減 》

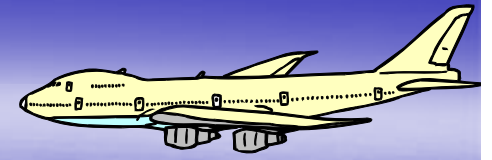


超高速鉄道整備による“プラス効果”

シールドトンネルの形状特性を活かした多目的活用例

1. 躯体に物流機能を共同化
2. パイプラインの敷設
3. 災害時に対応したライフラインのバックアップ機能





ご清聴ありがとうございました